

# 就職試験 ジャーナル

第42巻 臨増3号  
2021年3月8日発行

特集

## 適性検査・SPI 対策～試験の概要と早期準備のすすめ～

企業の採用試験では、学科試験の一つとして、または学科試験とは別に、「適性検査」を実施するケースが多い。「適性検査」にも種類があるが、中でも「SPI（エスピーアイ）」は高卒採用試験でも実施する企業が少なくない。しかし、「適性検査」自体は、まだまだ高校生にはなじみの薄いもので、初めて取り組むと戸惑うことも多いだろう。そこで今回は、「適性検査」の概要を紹介するとともに、2年次からの早期対策について「SPI」を中心に考えてみたい。

### 採用試験における適性検査

#### ●採用試験における適性検査とは

採用試験で行われる適性検査は、志望者がその企業の仕事内容に適應でき、十分に能力を発揮することが可能かどうかを見極めるために行われ、採用を決定する際の重要な判断材料になる。

#### ●適性検査の種類

採用試験における適性検査は、主に能力検査と性格検査に分けられる。どちらか一方だけ行う企業もあれば、両方を実施する企業もある。

また、適性検査は、多くの種類のもので制作されているが、採用試験を行う企業は、その中から自社にあったものを選んで実施している。SPI（エスピーアイ）、一般職業適性検査、クレペリン検査が有名だが、他にも多種の検査があり、内容もさまざまである。事務職採用向け、運転手採用向けなど、職種に応じた内容の検査もある。

#### ●適性検査の実施状況

採用試験における適性検査の問題は、公開されていないため、それぞれの内容ははっきりとわかっていない。それぞれの適性検査がどの程度の企業で実施されているかも不明である。ただし、

ある企業が採用試験にどの適性検査を実施するかは、求人票に書かれている場合がある。また、毎年同じ適性検査を実施している企業が多いので、先輩の受験報告書が参考になる場合がある。受験した先輩には、できる範囲で、出題内容を報告させるように指導したい。

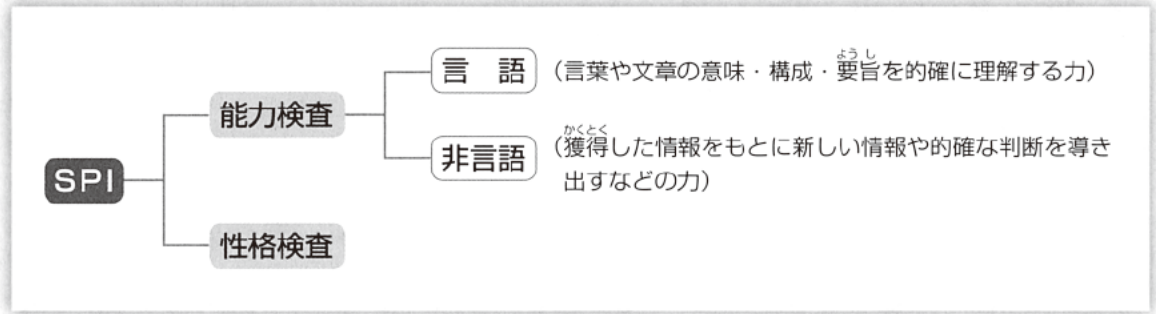
### 主な適性検査の概要

#### ●SPI

SPI（現在はSPI3）は、リクルートが提供している適性検査である。仕事をする上で必要とされる資質を総合的に測定しようとする検査で、人材採用時だけでなく、入社後の適材適所を目標とした配属先の資料として活用される場合もあるようだ。全国で約1万3,600社、受験者数約204万人（2019年度実績：リクルートのホームページより）と、多くの企業の採用試験で実施されており、この分野でのシェアは国内トップといわれている。

以前は大企業とその関連会社、対象は大学生がメインだったが、近年は中小企業や新興企業にも広がり、高校生の採用試験においても利用が増えている。特に志望者が集中する企業では、絞り込みのためにも利用しているようである。また、公務員試験においても、SPIを取り入れる自治体が市役所を中心に少しずつ増えている。

SPIは、大きく分けて能力検査と性格検査に分けられる（次頁資料参照）。能力検査では、企業の業務で要求されるコミュニケーション能力、数的処理能力や論理的思考能力などが測られる。能力検査は、受験対象や測定内容によっていくつかのタイプがあるが、高校生対象の採用試験では、主にSPI3-Hという検査が使用されている。問題内容は、小学校・中学校レベルを中心とした国



語、数学（算数）の知識を使って解ける問題だが、SPI独特の形式の問題も出題される。

性格検査では、企業の求める人材かどうかの判断基準となる受検者の考え方や行動パターンを行動的側面・意欲的側面・情緒的側面・社会関係的側面から測定する。

### ●一般職業適性検査

採用試験で用いられる一般職業適性検査とは、厚生労働省編集の適性検査である。円打点、計算、名詞比較、形態照合、記号記入、文章完成など、さまざまな検査で構成されている。かなりやさしい問題がほとんどだが、解答時間が短く、問題数は多いので、すばやく、正確に多くの問題を解くことがポイントになる。

### ●クレペリン検査

クレペリン検査にはいくつか種類があるが、代表的なものには内田式クレペリン検査などがある。

クレペリン検査は、1ケタの数字の足し算を続けて行うという単純な作業を続ける検査である。その結果を基に、受検者の能力や、作業時の性格・行動の特徴を測定する。全体の計算量を基に能力を測定し、1分ごとの計算量の変化（作業曲線）、足し算の間違いを基に性格・行動の特徴を測定する。計算量が多い方が能力は高く評価されるので、すばやく、正確に作業をすることが重要である。

### ●その他の適性検査

SPI、一般職業適性検査、クレペリン検査以外にもさまざまな種類の適性検査があるが、それらについては情報が乏しく、それぞれがどのような内容なのかは、よくわかっていない。SPIに似たもの、一般職業適性検査に似たものがあるが、具体的な問題のタイプはそれぞれの適性検査によって異なっている。適性検査特有の、単純な作業をする検査やクイズのような問題も見られるが、国語、数学（算数）と重なり合う問題も見られる。また、国語、数学だけでなく、英語、社会、理科

の知識を問う適性検査も一部だが存在する。

したがって、どのような適性検査にも対応できるように、一般常識、学科の内容と適性検査の内容を幅広く学習するように指導したい。

## SPI能力検査対策

次に、前述したように高卒採用試験でも実施する企業の増えているSPIについて、さらに細かく解説したい。特に、事前準備の必要な能力検査について、対策法を紹介する

### ●能力適性検査の構成

SPIは大きく能力検査と性格検査に分かれる点は前述した。そのうち、性格検査は性格特性を測定する検査であり、素直に飾らず答えるものなので、本番で戸惑わないよう、1回程度市販の検査を実施すれば充分である。

一方、能力検査については、出題のレベルはともかく、出題形式が独特であるため、試験慣れのためにも問題集や模試の実施など、事前準備が高得点の大きなカギとなる。

能力検査（検査時間70分※ペーパーテストの場合）は言語分野、非言語分野に分けられ、以下のような構成となっている。

#### (1) 言語分野

- ・実施時間 30分 / 50～55問程度
- ・5～6つの選択肢からの択一式

国語的分野に関する出題である。企業の業務では、折衝や意思の伝達、文書作成等、言語を通しての活動が多いため、言語的理解力がどの程度備わっているかを測定する。

具体的には、対義語・包含関係といった語句に関する問題、要旨の理解や接続詞を問う長文読解等により、基礎的な語彙力や文章理解力を試すのである。

**問題例****【対義語】**

太字で示された語の意味と最も反対の意味になる語を選べ。

安価

- A 単価      B 特徴      C 原価  
D 高価      E 時価

正答 D

**【2語の関係】**

太字で示された2語の関係を考え、同じ関係を表す対を作れ。

コート：防寒

- カメラ：A 撮影                      B レンズ      C 映写  
                    D デジタルカメラ      E 精密機械

正答 A

**(2) 非言語分野**

- ・実施時間 40分 / 40問程度
- ・8～9つの選択肢からの択一式

算数・数学的、論理的分野に関する出題である。企業では、経理だけでなく、企画、販売、生産管理等さまざまな部門で、統計的な処理・分析といった業務を行う。非言語分野では、そういった業務に不可欠な、数的処理能力や論理的思考能力について測定する。出題内容は、小学校～中学校+高校1年生レベルの知識を用いた、加減乗除など基礎的な計算問題や文章題、推論等である。

**●能力適性検査の特徴**

SPIの「能力検査」は、小学校～中学校+高校1年生レベルの基礎的な知識を基に解ける問題となっているが、次のような特徴がある。

**(1) 「知識」よりも「知能」が問われる**

採用する企業にとっては、仕事を進める上で必要な資質や能力が備わっているか、論理的に物事を考えて知恵を働かせられる人なのか、採用する上で大切なポイントとなる。そのため、SPIの「能力検査」は、一般的な「知識の量」より「知能」が問われる検査と言え、より多くの知識を備えたものが高得点をとれるというものではない。

例えば、言語分野の「2語の関係」の問題の場合、語句の意味についての正しい知識も必要だが、言葉どうしがどのようなつながりを持っているのかにまで踏み込んで考えなくてはならない。基礎的な知識を基に解けるレベルではあるが、問題を解くには、知識だけではなく、判断力や応用力も必要とされる。

**(2) 制限時間の割に問題数が多い**

言語分野も、非言語分野も、難問というような問題は見当たらないが、試験時間の割に数多くの問題が出題される。単純に計算すると、言語分野は1問32秒、非言語分野は1問60秒で解かなければならないことになる。

**(3) 独特の出題形式を持つ問題が含まれている**

通常の学校の授業や試験ではあまりなじみのない、特殊な設問形式の問題が含まれているため、本試験で初めてSPIの能力検査を目の当たりにすると、「動揺してしまい、あまり解けなかった」という結果になってしまいがちである。

以上の特徴を踏まえると、能力検査はある程度パターン化されているので、事前の対策を行った場合と行わなかった場合とでは、結果がかなり変わってくるといえる。

本番で十分実力を発揮するためには、SPIの能力検査に的を絞った準備が必要となる。そして、試験直前に準備を始めるよりも、高校2年生から、段階的に少しずつ問題集等に取り組んでいくことが、合格の大きなカギとなるのである。

**●進学指導にも役立つ能力適性検査**

就職志望者だけでなく、進学志望者に対しても、言語分野（国語領域）と非言語分野（算数・数学領域）の基礎能力を鍛えておくことは、今後の受験勉強において役立つ。

**問題例****【年齢算】**

ある家族の父と息子の年齢は、現在、父が34歳、息子が2歳である。父の年齢が息子のちょうど5倍になるのは何年後か。

- A 4年後      B 5年後      C 6年後      D 7年後  
E 8年後      F 9年後      G 10年後  
H A～Gのいずれでもない

正答 C

**【推論】**

P、Q、Rの3個の箱がある。PはQよりも軽く、Qの重さはPとRの重さの和に等しい。このとき、次の推論ア～ウのうち、必ず正しいといえるものはどれか。A～Hから1つ選べ。

ア：RはQよりも軽い

イ：QはPよりもRよりも重い。

ウ：PはQよりもRよりも軽い。

- A アだけ                      B イだけ  
C ウだけ                      D アとイの両方  
E アとウの両方              F イとウの両方  
G アとイとウのすべて  
H アとイとウのいずれも必ず正しいとはいえない

正答 D

## SPI能力検査攻略の基本の3Step

最後に、SPIの能力検査の攻略に向けて、指導のポイントを3段階に分けて紹介する（オススメの教材は、いずれも実務教育出版刊行）。

### Step1 ●中学までの国、算・数の基礎固め

まずは、正答を導き出すために必要な基礎知識を認識し補強することが大切である。

#### 【言語分野:国語】

漢字や熟語、語句の意味を覚えること、文章の要旨をとらえる力をつけさせることが必要になる。新聞や本を読ませたり、作文を書かせたりなど、さまざまな文章に触れる機会を増やすことで語彙力、読解力を養成できる。

#### 【非言語分野:算数(数学)】

難しい公式は必要ないが、小・中学校段階で学習したレベルの公式をすっかり忘れていたり大きな差が出る。したがって、高校前段階に学習した基本的な知識の復習が大切になる。

小・中学校段階で履修したものは広範囲なため、基礎に立ち返っての復習は取り組ませにくいものもあるが、出題傾向に絞って教材を活用することで、学習を効率的に進めることができる。

#### 《基礎固めにオススメの教材》

『ステップアップ 国・数・英』

『ステップアップ 国・数・英 Next』

『わかる!とける!基本の数学』

『はじめて学ぶSPI入門問題集』

『高校用SPI入門テスト』 **全面改訂**

### Step2 ●出題傾向に慣れる

1問1問はそれほど難しい問題ではないが、通常の学校の試験などでは出題されないような独特なパターンを持つ問題が含まれている上、試験時間の割に問題数が多いため、数多くの問題を解いて慣れさせることが成果を上げる秘訣である。言語分野の長文読解も丁寧に読めば解答できるレベルなので、こちらもまず慣れさせることがポイントになる。

#### 《出題傾向への慣れにオススメの教材》

『基礎から学ぶSPIベーシック問題集』

『高校用SPI基礎テスト』

### Step3 ●応用力と解答スピードを身につける

SPIで高評価を得るためには、言語分野30分・非言語分野40分という限られた時間をいかに有効に使えるかがカギとなるので、解答スピードを上げることが不可欠になる。解法を身につけることであっさりとして解けてしまう問題も多いため、傾向に沿ってまとめられた問題集による練習を重ねることで、時間内で解く力を身に付けることが容易になる。

また、同じテーマの問題でも、切り口によってはまったく違うテーマの問題に見えるので、いざという時にうろたえさせないように、さまざまな問題に取り組みさせて、応用力・実戦力をつけさせることが大切である。

#### 《実戦力をつけさせるのにオススメの教材》

『実戦レベルで学ぶSPI対策問題集』

『高校用SPI対策テスト』



今号の  
イチオシ教材

「SPI」性格検査・その他の適性検査対策に役立つ教材をさらにご紹介!

## 就職に向けた性格検査 GET

実施時間●30分(配布・回収・説明等の時間を含む)

標準採点期間●10日間

受検料●450円(採点料・税込)

就職試験対策として、自己理解と体験ができる“性格検査”です。

## 一般常識&適性検査ベーシック

体裁●B5判・79ページ

別冊●正答と解説/確認テスト(2回分)

定価●640円(税込)

《一般常識編》と《適性検査編》の2部構成。  
さまざまなタイプの適性検査について学べます。

★ご検討用実物見本を無料進呈!お気軽にご請求ください。☎03-3355-1801 実務教育出版 教育教材事業部

『就職試験ジャーナル』  
バックナンバーについて

本年と前年の『就職試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材NAVI」でご覧いただけます。

高等学校のTOPページ(<https://www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/>)より、「活用情報(モデルプラン・指導情報など)」→「指導情報」をご覧ください。